

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397100062		
法人名	自然株式会社		
事業所名	グループホーム じねん		
所在地	愛知県田原市豊島町釜鑄67番地		
自己評価作成日	26年3月3日	評価結果市町村受理日	平成26年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397100062-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397100062-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年3月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念「あるがままに、こだわらない、とらわれない、ほどほどに」ケアのポイントは「あるがままに」利用者を理解し、把握する。介護者のポイントは《こだわりを捨て、己にこだわらない、ほどほど(塩梅良い状態)なるサービスの提供我ができる》楽しく、笑いが常にある雰囲気醸し出すよう努力をしている。「人として最後まで生きる」お手伝いをしていく居住地を目指しています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

木のぬくもりと採光が良い環境を整えており、利用者が穏やかな気持ちで過ごすことができるように配慮している。1階には認知症対応型のデイサービスを併設していることもあり、デイサービスを利用している方が、ホームの環境に馴染んでから入居することも可能であり、認知症の方にとっては、環境の変化を最小限に留めることができる。ホームの日常生活の中でも、利用者一人ひとりができることに関わりながら、毎日の食事作りや衣類の洗濯等、職員のサポートを受けながら、前向きな生活の実現に取り組んでいる。ホーム名にある「じねん」とは、自然薯のように大地に根付いてほしいという、代表者の思いもあり付けられている。また、ホームでは、家族と利用者が関係を継続することができるように、毎月ホームに来てもらうように取り組んでおり、家族と利用者とのより良い関係づくりにも努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念そのものが介護(ケア)である。理念に共感し少しでも近づけるよう業務に取り組んでいる。他職員が理念をどうとらえているかわからないが。理念を理解して実践していこうと思い働きかけをしているところ(実践に十分つながっていない)理念の浸透は不十分だと思う。利用者のためを考えこたわらずとられずほどほどを心がけている。心がけている。笑顔でいることを心がけ、安心して過ごせる場提供したいと思っている。心がけて接している。時々こたわったり、とられたりしてかかわってしまうことがある。	ホーム名にある「じねん」のとおり、ホームが地域に根付いて、利用者が「あるがままに」生活できることを、基本理念としている。また、代表者より職員には、「こたわらない、とられない、ほどほどに」、という基本姿勢を持つことを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の中学生が福祉交流に来る。他事業者との合同運動会に参加している。毎月事業所に伺い利用者の情報交換をしている。交流はない。地位子との交流歯まだままだと思う。隣近所へは散歩時挨拶を心がけている。すこしずつ増えていると思う。(市の祭り参加など)。日常的交流歯少ない。現状では業務で手一杯で地位とのつながりが薄い。今後徐々に増やしていきたい。喫茶店に定期的に出かけ地域になじんでいる。毎日の買い出しには利用者、入所者等連れ立っていつている。近所の美容院に出かける(歩いて)	自治会長が代表者の知人という関係もあり、ホームと地域の方との関係は徐々に深まりつつある。地域の喫茶店に出かけたり、老人会との交流にも取り組んでいる。また、中学生の福祉教育の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は神戸地区の老人会の集まりで「認知症について」の優しいお話をしに出かけた。まだほとんどできていない。不十分。喫茶店やスーパーでの買い物その他地域への外出は認知症の方との関わり方、接し方をさりげなく周りへ発信する機会になっていると思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流について民生委員の方や総代の方々から公民館や市民館を利用してはどうかと意見を頂く。どんな過ごし方をしているのか実際に見て頂いている。2月に1度行い、意見交換をしている。今年度はほぼすべての他の会議に参加させて頂き、外部の方々の様々な意見を聴かせていただきとても参考になった。	会議には、地域の方が参加していることで、会議を通じて地域の行事の案内を得る機会となっている。また、会議の際には、利用者毎の身体状態に関する報告を行っており、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。	会議に家族の出席が難しい状況が続いてこともあるため、ホームへの理解を深めてもらうためにも、継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不十分。できていない。福祉や介護に関する温度差がかなりあり、言葉が通じない事が多々ある。そのため相談はできていない。上目線での対応があり、決まりや法を引っ張り出し、真に利用者やその家族を思い考えての言葉が感じられない。そのためぶつかることがある。相談やより良いサービス構築のための相談ができる人材不足を感じている。	運営推進会議の報告等を市の担当者に直接行っており、定期的な情報交換の機会としている。現状は、困難事例があった際には連絡を行っているが、定期的な交流等の取り組みは行われていない。	市関係部署との交流については、現状、必要な情報交換以外は活発であるとは言えない面がある。グループホームもデイサービスも地域密着型サービスであるため、今後の連携等の取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分は「身体拘束」を正しく理解できてはいないが拘束になるであろうことはしないよう心がけている。他職員も拘束しない為にはどうしたらよいかを考え行動している。1階から2階間の往復は自由、玄関も施錠しておらず、開放的。スタッフの連携にて安全確保に努めている。出ていく入居者には、外へとことん付き合い対応。動きたい人には安全を配慮して本人が納得するまで自由にしている。拘束は行っていないが、職員が正しく認識、理解はしていないと思う。拘束はない。鍵をどこにもかけない事はすばらしい。正しく理解はしていないが、職員全員で取り組みをしている。	ホームは、代表者より身体拘束を行わない方針を職員にも伝えており、利用者の様子を見ながら外にでる機会をつくっている。その上で、ホーム階段やエレベータを利用しながらホーム内を移動することができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会がつかれない。日々の中で学ぶ機会を作り、虐待防止に努めたい。法を学ぶ機会はないが虐待のようなことはなく、自分も言葉掛けなど十分注意している。努めている、今後は勉強会などで意識を高めていきたい。入浴時にあざやきずなどの確認をしている(DS)事業所内にては職員が互いに交代し対応にあたり防いでいる。時にスタッフが感情的になるような場面では対応を他の職員に交代している。学ぶ機会はないが、自分の心理状態で利用者のケアに影響が出てしまいそうなときは他職員に代わってもらったり、そばから離れることで出ずに済んだことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会が持てなかった。教科書で読んでなんとなく知っているが十分に理解できていない。学ぶ機会なし。日々の中で学ぶ機会を設け、理解し活用できるよう取り組んでいきたい。 現時点では制度利用が必要な方は見えないが、場合により、そういった制度の活用も利用していくことは視野にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問や不安については納得いくまで説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会としての家族の集まりはすくない。「じねんい」お見えになった時に様々な内容についてお話をするように努力している。 家族や利用者が管理者へ話ができる環境になっている。家族が来所された際にはいつでも相談を受け、コミュニケーションを図っている、又支払いの際には近況報告をし、家族からも情報を頂いている。利用者やかぞくの意見・要望がある時それを代表者等に伝え反映できるようにしている。	家族には、毎月利用料の関係でホームに来てもらうように働きかけており、日常的な訪問をはじめ、ホーム行事への参加も得られている。また、家族の意向や要望にも合わせながら、細かな報告も行っている。	利用者や家族に合わせた便りを作成しているが、ホーム全体の便りの作成が行われていない現状がある。ホーム便り作成の担当者を定める等、今後に向けた取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映されている所もあるが反映されていない事が多い。意見を言う機会は設けられていない。職員の意見はあまりはんえいされていない、専門知識をしっかりと持ち意見を言える人が少ない。職員間で月2回会議を行い、社長に報告している。日々のぎょうむでも社長は良く目配り、気配りをされ、相談など話ができるようになってきていると思う。	ホームでは、必要に応じた会議や話し合いを月1回や週1回の頻度で開催しており、話し合われた内容を代表者に伝えている。また、ホームには代表者が日常的に勤務していることもあり、職員とは日常的に意見を交わすように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	取り組んでくださっていると感じ、前向きに業務に取り組んでいる。向上心を持って働ける仕事環境ではない。向上心を持って働ける環境、条件である時とそうではない時がある。努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保等進めているがまだ受けていない。機会があれば進められている。職員で進んで勉強会を開催し、知識を身に着ける努力をしている。研修はあるが、もっと充実してもいいかなと思う。現状は人員不足もあり、機会が少ないが、左記のような取り組みを徐々にしてくれると思えるし、自分も少しでも力になれるよう成長していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月にグループホーム合同運動会に参加し、短い時間でしたが、他の職員の方々と関わることができ、とても勉強になった。地域の福祉交流の場が少ない。もう少し職員が話を聴けるような場があると良い。他同業者と交流する機会はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なかなか利用者の口から聴くことが難しいが不安や不満など察知できるよう取り組んでいる。なるべく初期の段階で不安要素を取り除けるよう考えているが、まだ十分ではない。努めている。最初の聞き取りからいろいろと話をし、常に本人の訴えに添えるよう努めている。傾聴に努め、本人が何をもちめているか理解するようにしている。また、明るく、穏やかな雰囲気になるよう笑顔で接し、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の段階で家族と本人の要望や思いを聴いており、情報を職員で共有できるように努めている。努めている。施設に見えられる家族等とできるだけお話をし、信頼関係を作っていきたいと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の本人や家族の気持ちの摺り寄せ会議を開催したりそれぞれの思いをきちんと受け止めたうえで入所。入所前の地域の集まりやボランティア参加の継続を支援。自分はまだ、利用者やかぞくの必要としていることが掴めていない部分が多々あると思う。努めている。入所前に本人、家族、職員が面談し、情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人により、介護していると考えてしまうことがある。人生の先輩として色々教えてもらいたいと思いながら接したり、できることを任せているときには、相談ごとにもってもらったりと関係を築く努力をしている。本人の能力に応じ「自分の事は自分で」「誰かのために」「一緒に行く」などを心がけ関わったり、見守ったり、声掛けをしたりしている。職員がやるのではなく利用者もお互い助け合えるような生活をしている。意識し、関係づくりを行っている。職員は利用者と一緒に暮らす、一緒に過ごす、できることはやっていただきお互い様という本人の思いを共感している。何にでも話を聴いたり、声を掛けてくれやすい存在になれるように、少しの変化があっても気づけるよう心がけている。利用者で「遠い親戚」くらいの関係に慣れるよう、日々業務に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	左記の関係になれるように近づけるように取り組んでいきたい。職員は本人、家族との関係を支えている。努めている。預けっぱなしでなく、受診や毎月の支払等に施設に顔を出せるよう取り組んでいる。家族に不満を持っている利用者もいるが、双方の思いを知り、支援したいと思う。家族と顔を合わせるごとに施設での状況伝え、家族の困っていることを聴き、家族と利用者がの関係が悪化しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にあつた時はゆっくり話していただいている。全ての方の馴染みの人や場所が把握できていない。入居前から参加していた地域の集会にそれまで通り参加できるよう支援している。いつでも会いに来られる環境になっている。努めている。りようしゃがあまり外出を好まれなかったり、友人を呼ばれたり、お見えになることが少ない。利用者の大切なものをこれからも維持できるよう取り組みたい。	利用者にとって馴染みの関係の方との交流を継続している方がおり、ホームへの訪問の機会も得られている。また、家族との関係が継続できるように定期的にホームに訪問しており、訪問の際に家族と喫茶や買い物に出かけたり、自宅に戻り日中を家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	まだできていない部分がありますが、利用者9名が良い関係を築けるよう取り組んでいます。普通の生活(買い物、洗濯など)をなるべく同じ人同志にならず、いろんな人と行動できるよう心がけている。努めている。互いにたすけすぎないように支援している(できることを他利用者がやってしまうこと)。相性を考慮して席順を決めたり、職員がコミュニケーションの中に入って孤立させないように支援している。利用者同士が楽しく過ごせる場づくりを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了者のその後はわからない。小さな情報しかない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からなかなかお話しされないことが多い。極力実現できるようにしたいと考えているが、個々での希望を叶えることはできていない。全員で参加できるものは少しできている。行っている。ケアプランに沿って介護するように努めている・出来る限り本人の意向に沿えるよう支援。本人の希望や意思を聞いた職員は記録に残し職員間で情報を共有している。一人一人の希望を聴く時間を作るようにしている。(困難な時もあり諦めてしまう)	ホームの取り組みとして、朝の時間に利用者も参加したミーティングの時間をつくっており、その時間に利用者からも話を聞くこともある。職員が把握した情報は、計画作成担当者でもある代表者に伝えられており、職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての人を把握できていないが、なるべく把握できるようにしている。入居前に得た情報をもとに、コミュニケーションを図り、さらなる情報収集をしている。努めている。俺までの生活習慣に合わせてケア出来ていると思う。資料だけでは把握できないのでできるだけ、利用者とは会話するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で把握に努めていると思う。毎日少しの変化を見逃さないよう気を付けてはいるが、全体の事を把握することは十分ではない。一人一人の現状を考えながら現状把握に努めている。朝にバイタル、表情等の観察を行っている。現状に満足せず一人一人の持っている力を見極めて発揮できる機会を作る努力がもっとも必要。その人の状況状態を見極め出来ることはして頂いたり、休んで頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況を踏まえてどうすべきか考えたことを担当者に伝え、介護計画に反映してもらえるようにしている。本人・家族・ケアマネとの話し合いの場があり、問題点や希望を聞いており、会議や通常業務内で職員は情報を共有し、ケアに反映している。できていない。家族・外部の方々との話し合いには参加したことがない。	計画内容については、利用者の状態等にも合わせながら6か月～1年で見直しを行っている。計画内容の検討については、毎朝のミーティングの時間にも話し合われている他にも、定期的に訪問している家族との話し合いも行われている。	介護計画の内容と日常の記録の残し方について職員間でも勉強の機会をつくり始めている。介護計画に即した支援と記録につながるように、今後も継続した取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同志で細目に相談している。時間単位で記録し様子がわかりやすく伝わるよう心がけている。情報共有をしながら実践するよう他職員とも連携している。できていない。毎日のケース記録、申し送りにより、職員間の情報交換をしている。出勤時、ケース記録に目を通すことで情報を共有している。月1回の会議で内容をまとめ気づきや工夫をケアに生かせるよう話し合っている。気づいた点、変化があった点、について必ず記録するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービスの多機能化を行う上で田原市の無理解等が浮上し思うようにできない現状がある。家族の状況、希望等に沿えるように対応している。通所デイ家族の要望に沿ってお泊りデイを行っている。現実の所むつかしい。当事業所の目指すところであると思う、自分もそのように取り組めるようレベルアップしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田原市の地域資源を把握しきれていないので、色々調べ徐々がいしゆつを増やしていきたい。できている。ボランティアの話し会に参加している利用者がいる。蔵王山展望台、サンテパーク、菜の花祭り、桜並木の散策、伊良湖海岸等地元を散策し、四季の移り変わりを感じたり、馴染みの地を歩いて思い出話をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診できるようにしている。家族の希望や都合を踏まえ、職員と受診することもある。信頼できる医師と連携しており相談に乗ってもらっている。入居前からのかかりつけ医にかかっている方もいる。(相談はできていない) 常に連絡を取り健康管理をしている。出来ている。かかりつけ医との連携を深めていると思う。DRも親身であり、利用者も相談しやすい関係が出来ている。	ホームでは、協力医とは日常的にも連携するように取り組んでおり、利用者の状態に応じて、ホームによる受診支援にも対応している。また、受診の際には、ホームからも情報提供も行われており、医療面での連携に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との相談連携はできている。常に相談し助言を仰いでいる。利用者の健康状態について変化があった際や心配な事、薬に関することの相談を受けている。出来る限りの助言はするがまだまだ知識、経験不足である。皮膚トラブルや体調の変化等に気づいたときには、必ず看護師に伝え見ってもらうようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療行為が終了後は速やかにたい退院を遂行する。そのために家族や医療サイドにこまめに情報収集や相談をかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状ではまだそういった状況にはないが、入所時に各家族から終末期についてのアンケートは取っている。	ホームとしての考えとしては、利用者の看取りに向けた支援についても前向きには考えているが、現状、家族との必要に応じた、十分な話し合いまでには至っていない。今後に向けた、必要な連携に取り組んでいる段階でもある。	現状、看取り支援に至る段階の方が入居していないこともあり、職員への必要な研修等が行われていない。利用者の状態変化に合わせた、今後に向けた必要な取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自分は不十分である。急変時への対応は早急に取り組みたい、全ての職員が出来ればいい。個人的にはまだ不十分だと思う。出来ているが、他職員に関しては疑問。定期的な訓練は受けていない、独学のみで不安が多い。急変や事故発生時に正しく対処できるか心配。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、避難が出来るようにしている。地域との協力体制は築けていない。消防訓練では消防署への連絡、初期消火、避難誘導の方法を確認している。普通の生活の中でも所々で訓練時の話を入り混ぜ思いつくよう工夫している。	年2回の避難訓練の際には、夜間の想定や通報装置の使用についても説明等が行われており、職員間で連携に取り組んでいる。現状、地域の方との協力関係の構築やホーム内における備蓄に関しては、今後のテーマでもある。	ホームが建物の2階にあるため、継続的に緊急時の職員間の連携と必要な連絡方法の確認について期待したい。また、地域の方にもホームの現状を知ってもらい取り組みについても期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するようにしているがプライバシー等を損ねてしまう言葉掛けをしてしまっている事がある、常に相手の立場に立って対応する努力が必要。皆さん人生の先輩であるので言葉使いに注意している、「助かりました」「ありがとうございます」等感謝をことばで伝えていきます。努めている。配慮が足りないと思い意識して行っている。年上の方という意識を持って声掛けするようにしている、プライバシーに関することは個々で対応したときのみ話すようにしている。心がけていますが、利用者の暴言にきつく反応してしまうことがあり、気をつけたい。	代表者が日常的に食事の際に現場に入っていることもあり、職員の対応で気になった際には注意を促すように努めている。また、利用者のおしゃれについても、利用者の自己決定に配慮しながら、同じ服にならないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけているが、十分に実践できていない。心がけているが、こちらから押し付けるようになってしまう場合もあるように思う。選択、決定を大切にしている。希望がない時は、いろいろあげて選んでもらうようにしている。入浴介助中や、落ち着いて話ができる時に困っている事や希望を聴いてみたりしている。心がけている、無理強いせず本人に任せ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員側のペースで対応してしまうことがあるが、なるべく希望に沿って支援するようにしている。業務優先にならないよう本人の希望やペースに配慮しているが職員の数や力量により、上手いいかない事もある。時間を気にせず、のんびりと利用者のペースで過ごしていただいている。業務より利用者優先という意識を持って努めている。業務を優先してしまうことがある。利用者の希望に沿うようにしているが、なかなか優先できない部分があると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	完ぺきではないができていると思う。清潔な衣類管理に努めている。身だしなみにも心掛けています。おしゃれについてはできていない。支援している。選べる人には自分で選んでいただいている。家族と一緒に美容院に行ったり、家族の都合が合わない方は施設近くの美容院でカットし、身だしなみを整えることができています。季節に合った服を用意してもらっている。声掛けを行い支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの食事量に合わせた盛り付けを行っている。利用者と一緒に食事作りや片づけをしている。毎日利用者全員で行っている。能力に応じて作業をしている。毎日一人ひとりのできる事をそれぞれが行い、片付けもしている。行っている。基本的には一緒にいき利用者の希望を取り入れるようにしている。全員の参加が出来ていない。	利用者が日常的に食事作りに関わることができるように、割烹着を着て食事の下ごしらえや調理等に参加している。食事の際には、職員も同席しており、楽しい時間をつくるように取り組んでいる。また、おやつ作りを行ったり、トロミや刻み食等にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている。医師との連携により、食べる量の制限のある方、食が細い方など一人一人に合わせて食事提供している。水分1日1000ccを目標にしている。行っている。毎月の体重測定をしている。病気に応じて料理提供している疾患のため食事制限が必要な方がいる。医師の指示アドバイスをもとに支援。咀嚼力、嚥下状態に合わせて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨き誘導をしている。食後の口腔ケアの支援のほか、来所時口臭の気になる方にはさりげなく声掛けをし、口腔ケアをしている。食後実践しているが職員の知識、認識不足がある。手が足りず本人任せにしてしまうことあり。しっかりできない方の対応が不十分。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	取り組めている。排泄パターンをつかみおむつの使用料を減らす工夫はしている。自立に向けた取り組みはあまりできていない。個々人のパターンをつかみ、支援する努力をしている。パターンを把握するよう情報収集を行い、実施。職員の意識のばらつきがある。羞恥心に配慮し、声掛け誘導を行っている。排泄の失敗がないようこまめに声掛けをしたり、誘導するよう心がけているが、多忙時に誘導を忘れてしまう。	一人ひとりの排泄状態について記録に残しており、現状、全員の方がトイレでの排泄を行っている。利用者の排泄状態については、申し送りの際に共有されている他に、看護師の支援で薬剤の調整を行っている方もおり、適切な排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	あやふやに理解している点有。腹部マッサージをしたり水分摂取を多めにしてもらうようにしている。野菜をふんだんに使ったメニューで食物繊維豊富。下剤で調整することもある。毎日の朝晩の散歩。取り組んでいる。職員の勉強不足あり。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングは職員都合になってしまうことが多々あるが、入浴を楽しめるようになってきていると思う。本人が入りたい時間に合わせて入浴できる工夫しているが、その日の人数などにより思いがすべてくめていない。本人の希望に沿うが入浴拒否が強い方もおり、「こちらの都合」で強行することもある。その方にとり、一番入りやすい時間帯を選び声掛けを行うようにしているが、浴わない場合は別のタイミングで声掛けを行うようにしている	入浴は1日おきの方が多いが、希望に合わせて毎日のように入浴している方もいる。時間についても日中の他に、夕食後に入浴する方もいる。また、日本の文化を大切にしたいという思いもあり、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や前日等の様子を見て休息して頂いている・夜間の睡眠に影響しないよう昼間の休息時間の調整をしている居室の明るさ、温度などに配慮し、気持ちよく眠れるよう心がけている。出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強不足です。薬の種類と効果についてはできる限り知識として頭に入れようとはしているが、完全ではない。確実に適量を服薬できるように支援している。週1回薬をセット。薬の内容や作用を把握している体調の変化等は記録記載になってはいるが意識不足を感じることもあり(看護師)看護師にまかせっきりになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った支援が出来るようにしている。週1回の喫茶店を楽しみにしている方。晩酌を楽しみにしている方。食事づくりでは得意なことを。家事でもその方の習慣となってやっていたことなどを中心として役割を持って頂いている。左記のように取り組んでいきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の機会を増やすよう取り組んでいる。毎日の買い物。レクで野化移出を行っているが、特定の方の外出が多くあり普段外に出たがらない方への支援が不十分。天気の良い日は出かけるようにしている。一人ひとりの希望に、その日毎にこたえることは困難だが希望に沿うような外出を時々している(おにぎりを持って近場に、桜見物、散策等)買い物は毎日行っている。	ホームでは、利用者が日常的に外出することができるように、食材等の買い物を毎日実施しており、利用者も職員と一緒に出かけている。また、お弁当を作って公園に出かけたり、季節に合わせた花見にも出かける機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている。お金を使う場面が少ないが、出先ではそれぞれがジックリ考え使用していると思う。管理も本人だけに任せっぱなしにしていない。食事の買い物と一緒にいき、どれが良いか選んだで頂いたり、欲しいものがある時はご自分で買われている。買い物に行った際に自分の買い物は自分で支払っている。支払時困っているようなときは一緒に考えてアドバイスをを行いサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望時支援している。利用者が電話をかけたり、手紙がきたり、して返事を書いている。自由に出輪や手紙を出せる環境にある。まったく電話をかけたり、手紙を書いたりする意思のない方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を出せていない。毎朝の掃除を日課としており、フローアに関しては清潔保持が出来ている。居室についてはもう少し、掃除できる時間を取りたい。行っている。特に不快はないと思う。季節感を出す努力をしている。	リビングの窓は南を向いて大きく設置されており、採光に優れた環境でありため、冬場は暖かい空間となっている。テーブルには、季節に合わせた花を飾っており、季節感にも配慮している。また、ホーム玄関先に掲示板を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫はまだできていないが、自然とそのような形になってきていると思う。個々で過ごすスペースは居室以外にないが、好きな場所に座り、好きな人と自由に話したりする空間はある。各居室はいつでも行けるようになっている。大きな畳椅子で話が出来ようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたベット等を持ってきている方もある。居室には余り物がなく整理しやすくなっているが、もう少し、昔から使用している馴染みのものがあると本人が落ち着くと思う。改善の余地あり。	居室には畳敷きの部屋も用意され、和風の雰囲気となっており、利用者が入居前に生活していた環境に近い空間づくりに配慮している。また、居室内には、利用者が使い慣れた家具や好きな物を持ち込んでおり、一人ひとりに合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫してある。居室入口は色分けがしてある。また居室の壁の色は入り口と同じ色を使用している、9通りの色が使っている。介護の視野が最大限になるようにガラス張りの壁が使用されている(危険を察知するためと本人の力を最大限に生かす為)、びくともしない安全な丸テーブルが使用され地震の時の安全確保につなげている。		